

2022.05.13

2022.07.28 一部改訂

北原白秋 山田耕筰 終焉の地・墓地

高校18期 多田和雄

東京都中野区に住んで20年になります。杉並区との境界付近で、利用する駅はJR中央線阿佐ヶ谷駅（新宿から5つ目、杉並区）です。最近阿佐ヶ谷姉妹という芸能人が人気となり阿佐ヶ谷の知名度が上がっています。{駅名は大文字のヶ、地名は小文字のヶ}

校歌の作詞者北原白秋がこの阿佐ヶ谷地区で死去したことはあまり知られていません。

(文中敬称略、以下白秋と記す)

白秋(本名;北原隆吉りゅうきち)は福岡県柳川市出身、19歳で早稲田大学入学に上京して東京周辺で32回転居し、最終地が阿佐ヶ谷でした。白秋は少年時代から詩歌に熱中し、ロマン派の短歌誌「多磨」を創刊して、現実主義の「アララギ」と歌壇を二分する新勢力となりました。白秋の雅号は、古代中国の陰陽五行思想「青春・朱夏・白秋・玄冬(げんとう、玄は黒)」からきています。

白秋の短歌の弟子;野北和義が書いた「阿佐ヶ谷時代の北原白秋」によると、昭和15年に阿佐ヶ谷に転居して2年後の昭和17年にこの地で死去しました。57才。糖尿病と腎臓病で昭和12年頃から視力が低下していたが虫眼鏡で読み、妻に口述筆記させて創作に励みました。晩年まで病の中で芸術院会員など膨大な業務を律儀にこなし、死の直前まで多磨会

員の投稿短歌の選評に注力しました。背は低く太り気味で、酒はほとんど飲まないが病院でも吸うほどのヘビースモーカーでした。〔写真01～08〕



〔写真01〕



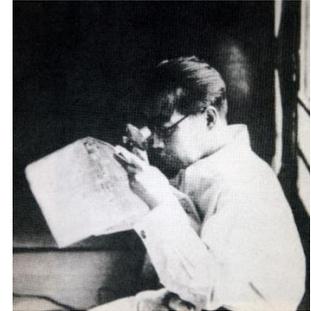
〔写真02〕

阿佐ヶ谷の庭
昭和15年



〔写真03〕

昭和16年頃



〔写真04〕

昭和16年頃



〔写真05〕

昭和16年
柳河にて



〔写真06〕

昭和16年11月2日
見桃寺歌碑除幕式、
最後の外出となる。



〔写真07〕

最後の正月
昭和17年



〔写真08〕

出棺
向かって右が野北

写真06に、「昭和16年11月2日見桃寺（けんとうじ、神奈川県三浦市、城ヶ島近辺）歌碑除幕式、最後の外出」、の写真があります。この旅行の疲れで病状が悪化して入院し、1年後に死去しました。見桃寺は白秋が大正2年に半年間住み、「城ヶ島の雨」を作詞した所です。

阿佐ヶ谷駅と隣の荻窪駅周辺には昭和初期に小説家が多数住んで阿佐ヶ谷文士村を形成していました。関東大震災で焼け出された井伏鱒二が最初に住んで、太宰治、与謝野寛(鉄幹)・晶子、亀井勝一郎、などが集まりました。昭和10年の与謝野寛の葬儀では白秋が弔辞を読みました。

地元の阿佐ヶ谷図書館に文士村の資料が整備されていますがこれらの資料の中に白秋の名前は見当たりません。文士村は将棋好きが中心メンバーで将棋好きの作家の家に集まりました。好みが合わず、白秋はハイカラ好みで派手な洋服を着て日比谷公園／洋食の松本楼に通っていました。

終焉の地の「阿佐ヶ谷北5丁目1番」に白秋が居住した家は既に無く、現在はビルばかりで何の形跡も碑や立札もありません。



[写真09]

杉並区役所のホームページに「荻窪／読書の森公園に北原白秋歌碑がある」と記載されています。白秋が翻訳した「まざあ・ぐうすの歌」歌碑ですが、地面に設置されて10年以上経過して劣化し、文字がまったく判読できません。



[写真10]

東京23区でもサービス精神豊かな区、例えば渋谷区は高野辰之居住地（文部省唱歌「故郷」、「春の小川」）、田山花袋終焉の地、などの碑を立てています。

北区は芥川龍之介居住地に説明板を設置しています。



[写真18芥川]

杉並区はさびしい限りです。

ということで終焉の地ではあるものの阿佐ヶ谷地区に白秋の痕跡は残っておらず、人々の記憶から消えました。

白秋の墓所は府中市の多磨霊園（都立）で、こちらは墓地巡りで有名です。墓地巡りをする人を「墓参り」にひっかけて「墓マイラー」と呼ぶそうです。俳句の季語では「掃苔」（そうたい、秋）。



白秋の墓は大きくてフルネームでわかりやすい墓です。 [写真11]

近くに、西園寺公望、東郷平八郎、長谷川町子、岡本太郎、などの墓もあります。霊園の管理事務所で作家・画家の墓地パンフを配布しています。なおペンネーム・芸名には調査が

必要で、三島由紀夫は平岡家（本名；平岡公威きみたけ）、谷啓は渡部家（渡部泰雄）、です。

◇◇◇◇◇

校歌の作曲者山田耕筰(昭和31年文化勲章)の旧名は「耕作」でした。昭和5年1930年からペンネームで「耕筰」を使用し、昭和31年1956年70才の時に声楽家;辻輝子(本名;眞梨子、49才)と3回目の結婚を機に戸籍も「耕筰」に改名しました。

「豊中中学校々歌」は昭和10年1935年に作曲されました。豊陵会ホームページ、校歌の作曲の楽譜写真には、左下にくずし字で「北原白秋作歌、山田耕筰作曲」と記名されています。

耕筰は世田谷区成城5丁目で死去しました。

Wikipedia を転記します。

1965年（昭和40年）11月初旬、耕筰は聖路加国際病院に入院していたが、家族が東京都世田谷区成城5丁目に広大な洋館風の邸宅を借りる。同年12月4日、耕筰は成城の自宅に退院してくる。そして12月29日、自宅2階の南向き10畳間で耕筰は心筋梗塞により死去した。享年80(満79歳没)。

Wikipediaによると耕筰は成城の家に25日間だけ住んだこととなります。

この家は昭和13年頃に富豪によって建てられて一時進駐軍に接収されて、その後山田家が入りました。当初は広大な邸宅でしたが今では庭の大半を切り売りしたのか数軒の家が建ち、現状は母屋が奥に隠れて道路から見えません。

現在この母屋には画家の横尾忠則が住んでいます。環境にやさしいのか、ゲージツ家の趣味か、手入れされず樹木は伸び放題・草ボーボーの家です。周辺の高級邸宅街とは雰囲気異なります。周囲の方々はヤブ蚊で大変でしょうね。



[写真12]

門扉は開いています。私はコンプライアンス遵守で入りませんでした。インターネットには赤く塗られた家の写真があります。道路から少し見える母屋の柱は赤いです。



[写真13]

耕筈が25日間だけ住んだ家なのでここに耕筈の面影を求めるのは無理でしょう。碑も説明板もありません。今は近くの世田谷ベース（所ジョージの家）のほうが有名です。

耕筰の墓所はあきる野市の西多磨霊園です（民営）。この霊園は山田耕筰を前面に打ち出しています。入口の近くに「山田耕筰記念庭園」があり、写真石碑、「赤とんぼ」楽譜碑・歌詞碑（三木露風）、があります。記念庭園の上段に耕筰の胸像があり、「からたちの花」の楽譜・歌詞（北原白秋）を書いた燈籠があります。霊園のレストランの名前は「からたち」です。

耕筰の墓と胸像が向かい合っています。



[写真14]



[写真15]



[写真16]



[写真17]

この霊園は山の斜面と言うよりも山そのものです。耕筰の墓は一合目あたりですがそれでもビルの7～8階くらいでしっかり疲れます。上の方には松田優作などの墓もあるそうです

が私は諦めました。霊園の管理事務所で有名人の墓所を教えてください。霊園内循環バスがあるので体力気力のある方は墓マイラーをどうぞ。

参照；①阿佐ヶ谷時代の北原白秋 野北和義

②作家の臨終・墓碑事典 岩井寛

③インターネット検索；杉並文学散歩－05 阿佐ヶ谷北界限 其の二

④Wikipedia 北原白秋 山田耕筰

○●○●○●

2021年秋に北原白秋終焉の地が自宅近くにあることを偶然知りました。ヒマにまかせて白秋や山田耕筰のことを調べてみました。各種資料を見てこのお二人の偉大さが判りました。50数年前に訳も分からずに校歌を歌っていたことを恥ずかしく思います。改めて、良い学校にいたんだと再認識いたしました。

○●○●○●

インターネット検索；杉並文学散歩 と同じジャンルに「中野文学散歩」のブログもあります。

壺井栄（二十四の瞳）、五木寛之、阿川弘之、阪田寛夫（ひろお、童謡さっちゃん、芥川賞）、などの旧宅が記載されています。

阿川弘之と阪田寛夫の家はすぐ近くで、娘の阿川佐和子と阪田なつめ（宝塚歌劇；大浦みずき、享年53歳）は幼少時の遊び友達でした。

阿川弘之が転出した後の旧阿川宅は保育園に変わり、私の孫がお世話になりました。